

農業農村支援センター

1 概況

管内の農業は、標高約 1,200m の八ヶ岳山麓から 760m の諏訪湖周辺に至る地域において営まれており、八ヶ岳西麓地域と諏訪湖周辺地域に大別できる。

八ヶ岳西麓地域は、県下有数の野菜・花きの産地であり、夏期冷涼な気象条件を活かし、野菜ではキャベツ、だいこん及びレタスが指定野菜に、セルリー、ブロッコリー及びスイートコーンが特定野菜の産地指定を受けている。特にセルリーは全国屈指の産地として発展してきている。花きでは、キク、カーネーションを中心に多品目が栽培されており、県内の 3 割弱の生産額を占める大産地として発展している。

また、畜産は酪農が主体で、自給飼料（牧草）を活用した畜産経営が行われている。

諏訪湖周辺地域は、水稻を基幹に果菜類（トマト、キュウリ）や花き（バラ、カーネーション）の施設化、団地化が図られている。果樹ではりんごが中心に生産され、主に観光農園で販売が行われている。

(1) 耕地面積

耕地面積は 5,924ha で、田は 3,285ha、畑 2,631ha となっている。

農家一戸当たり耕地面積は 102a で県平均 100a を上回っている。

市町村名	耕地面積(ha)	田(ha)	畑(ha)	農家一戸当たり 耕地面積(a)
岡谷市	220	76	144	43
諏訪市	615	402	213	63
茅野市	2,320	1,330	985	95
下諏訪町	49	25	24	34
富士見町	1,590	837	690	149
原村	1,130	555	575	169
合計	5,924	3,285	2,631	102
対前年比	99.5	99.8	98.4	—
県	105,300	51,900	53,400	100
対前年比(%)	99.2	99.0	99.4	—

注) 資料:農林水産省耕地面積調査(令和3年3月1日現在)

①原数を四捨五入したため、総数と一致しない場合がある。

②一戸当たり耕地面積の算出に使用した総農家戸数は 2015 年農業センサスによる。

(2) 農家戸数、農業就業人口、基幹的農業従事者等

農家戸数は 5,829 戸で前回センサスの 92.7%となっており、うち専業農家は 905 戸で、専業農家率 15.5%は県の 16.4%を下回っている。

販売農家戸数は 2,758 戸、自給的農家戸数は 3,071 戸となっている。

農業就業人口は 4,579 人で前回センサスの 85.8%と減少しているが、販売農家の基幹的農業従事者は 3,984 人で、前回センサスの 91.1%にとどまっている。

(単位：戸、%、人)

市町村名	農 家 戸 数						農 業 就 業 人 口	基 幹 的 農 業 従 事 者	
	総農家数	販売農家				自給的農家			専業農家率
		専業	兼業		計				
			第1種	第2種					
岡谷市	512	33	3	43	79	433	6.4	151	116
諏訪市	982	120	30	253	403	579	12.2	626	553
茅野市	2,452	375	86	697	1,158	1,294	15.3	1,901	1,599
下諏訪町	146	8	1	11	20	126	5.5	35	33
富士見町	1,070	185	64	349	598	472	17.3	898	819
原村	667	184	81	235	500	167	27.6	968	864
合計	5,829	905	265	1,588	2,758	3,071	15.5	4,579	3,984
対比	92.7	107.6	59.4	84.6	87.2	98.2		85.8	91.1
県	104,812	17,241	6,008	28,536	51,785	53,027	16.4	82,935	73,483
対比	89.3	103.0	71.7	77.2	83.4	96.0		82.7	88.3

注) 資料：2015年農業センサス

- ①販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は農産物販売金額が 50 万円以上の農家
- ②自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満でかつ農産物販売金額が 50 万円未満の農家
- ③農業就業人口：1年間に農業のみに従事した世帯員及び農業と兼業の双方に従事したが、農業従事日数が多い世帯員
- ④基幹的農業従事者：農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、1年間の普段の主な状態が農業に従事していたもの
- ⑤対比：2010年農業センサスとの比較

(3) 令和2年の気象と農業生産状況

令和2年は近年同様に年平均気温がかなり高く、降水量が多く、日照時間も多い1年だった。1月から3月は平均気温は平年よりかなり高くなり、統計開始以来、高い方から1位の記録を更新。降雪量もかなり少なかった。日照時間は平年並みまたは少なかった。

4月は晴れた日が多かったが気温が低め、5月は気温が高くなった。6月の梅雨入りは平年より3日遅めで、梅雨明けが平年より11日遅く日照不足となった。7月は活発な梅雨前線の影響で、長期間にわたって大雨となった（「令和2年7月豪雨」）。このため、夏の降水量は多くなった。8月は晴れた日が多くなり、記録的な高温となった。9月から11月は、前半は曇りや雨の日が多く、後半は晴れた日が多かった。平均気温は高め、降水量は平年並みか少なめとなった。

こうした気象状況ではあったが、管内においては大きな気象災害はなく、被害額は報告されなかった。

農作物の生産状況は、水稲については、育苗期は低温気味だったものその後好天に恵まれ生育は良好に推移したが、7月の天候不順により全域でいもち病の発生またカメムシによる斑点枚が発生したほ場もあり、作況指数は99となった。品質については、形質、着色粒、整粒不足で1等米比率は90%（2月末現在）であった。

果樹では、内部裂果つる割れがやや多くみられ、7月の多雨の影響と推測された。病害虫では全般に問題となる発生はなかった。野菜類は春先霜による被害は少なかった。花きでは、7月の曇天・長雨・滞水の影響から生育不良が見られた。

(4) 農業等産出額（R1）

（単位：ha、千万円、％）

種 類	作付面積	農業等産出額	構成比	備考	
農畜産物	米	1,995	312	20.0	
	麦・大豆・雑穀	443	9	0.6	
	果樹	86	20	1.3	
	野菜	1,584	653	41.8	
	花き	97	375	24.0	
	きのこ	-	5	0.3	
	畜産	-	100	6.4	
	養蚕・その他	-	0	0.0	
	計	4,205	1,474	94.4	
水産業	-	87	5.6		
合計	-	1,561	100.0		

注) 産出額は県農業産出額に基づく地域振興局推計値である。

(5) 新規就農者の確保育成状況

市町村 J A 等関係機関で構成する就農支援連絡会により、就農相談活動、就農計画作成支援、新規就農者のフォローアップを実施している。令和 2 年度の管内の新規就農者数は 13 名であった。

また、円滑な就農を支援するため、新規就農里親支援事業を実施している。

最近の新規就農の状況（45 歳未満）

（単位：人／年間）

年 度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度 (計画)
人 数	2 6	1 6	1 1	1 3	1 4

新規就農里親農業者登録事業・里親活動支援事業の状況

（単位：人）

項 目	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度 (予定)
里親登録者数	3 5	3 5	3 4	3 2	2 9
里親研修者数	5	7	6	6	3
研修後の就農者数	4	3	2	5	1